

学校運営計画 (4月)			総合評価		
学校運営方針	文武両道を校是とし、鍛錬とほめて人格を陶冶し、自律心と思いやりの心を持った、科学技術創造立国 日本の次代を担う創造的・実践的な技術者の育成				
昨年度の成果と課題	本年度重点目標				
<p>「Team FUKKO」「燃える福工生、目指せ日本一」を合い言葉に、全職員で教育活動に取り組み、昨年度は知的財産教育や資格取得、部活動等、様々な成果を上げた。</p> <p>本年度はさらに、「工業人材育成リーダー校」として、将来的にわたり生産・製造工程全体を見通す力を持つる人材の育成」を使命として掲げ、「ものづくり」への夢と使命感を持った、科学技術創造立国 日本の次代を担う創造的・実践的な技術者の育成を目指す。</p>	<p>具体的目標</p> <p>授業規律の確立、資格取得の推進並びに学ぶ意義や大切さ・楽しさを教え、鍛えて、ほめて学習意欲の向上を図る。</p> <p>ICTの活用等によるわかる授業の創造、個に応じた学習指導の工夫、アクティブ・ラーニング及び家庭学習の推進により主体的に学ぶ態度と学力の定着を図る。</p> <p>授業研究に積極的に取り組み、シラバスと授業評価の活用等により、学校全体の教科指導力と授業技術の向上を図る。</p> <p>教育活動全体を通じ、計画的、組織的なキャリア教育を推進し、「福工サクセスプラン」をもとに、生徒の可能性を最大限伸ばし、個に応じた進路実現を図る。</p> <p>産業人材育成事業を柱とする技術・技能教育並びに、国際的な広い視野を養う教育活動を推進する。</p> <p>5S「整理・整頓・清掃・清潔・躰」+5S「セイフティ・信頼・作法・省エネ・スマイル」活動と知財教育を推進する</p> <p>道徳教育と人権教育を充実させ、生徒の規範意識と豊かな心の育成に努める。</p> <p>「燃える福工生、目指せ日本一」の合い言葉のもと、生徒の自主的・自発的な生徒会活動、学校行事、部活動及び奉仕活動の推進に努める。</p> <p>積極的コミュニケーション等、言語活動の充実と豊かな体験活動を重視した教育活動を推進する。</p> <p>PTA・工友会との連携、休業土曜日の有効活用、積極的な小・中学校への広報活動、学校評議員制度等の効果的活用を図る。</p> <p>安全・安心活動と「ものづくり」を中心に据えた地域貢献活動を推進する。</p> <p>地域からの正確な情報収集と地域社会に対し、目に見える学校情報の積極的発信を図る。</p>				
	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
	教科指導	<p>授業規律の確立に努め、鍛えてほめることで学習意欲の向上を図る。</p> <p>授業研究に積極的に取り組み、学校全体の教科指導力と授業技術の向上を図る。</p>	<p>授業スローガンを設定し、学ぶ意欲やチャレンジ精神を高める。</p> <p>ICTを活用したアクティブ・ラーニングを推進し、学ぶ意義や大切さ、楽しさを教える。</p> <p>実力テスト結果の分析と併せ、成績不振の生徒には個に応じた学習指導を工夫する。</p>	B A B	A
			<p>研修部と連携し、アクティブ・ラーニング等の授業技術に関する研修を推進する。</p> <p>授業公開週間等を活用し、積極的な研究授業を推進する。</p>	A A	
			<p>「燃える福工生、目指せ日本一」の合い言葉のもと、生徒の自主的・自発的な生徒会活動、学校行事、部活動及び奉仕活動の推進に努める。</p> <p>積極的コミュニケーション等、言語活動の充実と豊かな体験活動を重視した教育活動を推進する。</p>	A A	
	生徒指導	<p>生徒の規範意識と豊かな心の育成に努め、高い規範意識と自尊感情を有した、県下工業高校トップ校に通う福工生として誇りと自信を持たせる。</p> <p>5S「整理・整頓・清掃・清潔・躰」+5S「セイフティ・信頼・作法・省エネ・スマイル」活動に日々則した取組ませる。</p>	<p>登校指導や校内巡回指導などの徹底で基本的な生活習慣の確立をさせる。</p> <p>規範意識の醸成に努め、「問題行動ゼロ」を目指す。</p> <p>保健部のカウンセリングなどとの連携で不登校・中途退学生徒ゼロを目指す。</p>	B B B	B
			<p>基礎基本徹底委員会と連携し、全教職員で生徒指導に携わる。</p> <p>登校指導や校内巡回指導などの徹底で基本的な生活習慣の確立をさせる。</p>	B B	
			<p>地域や関係機関（警察・校区自治会・ゾーン30など）との連携を密にし、規範意識の向上に努める。</p>	A	
			<p>進路ガイダンス、インターンシップ、応募前職場見学を推進する。</p>	A	
	進路指導	<p>福工サクセスプランに基づき、各学年の進路目標に応じた活動を計画し、将来の社会人・職業人としての素養を養う。</p>	<p>ホームルーム活動や進路講演会、進路学年集会などを通じて生徒一人一人の進路意識の高揚を図り、学校生活との繋がりを考えさせる。</p> <p>キャリアデザインシートの活用を即し、生活習慣を確立させ日々向上心を持って高校生活が送れるように支援をする。</p>	A B	A
<p>きめ細やかな進路相談と生徒の特性をいかした就職指導に努め、就職内定率100%と1次での採用内定率90%以上を目指す。</p>			A		
<p>生徒の進路意識を高め、自己の適性や希望進路を考慮した進路指導を行い、希望進路を実現する支援を行う。</p>		<p>進路推薦内規の理解を図り、実施のための体制を整備する。</p> <p>進路宿泊研修等の充実・発展を図り、希望進路の実現を図る。</p> <p>公務員希望者に対して継続的な課外補習や模擬テストを行い、一人一人の学習状況を把握し指導することで合格率向上を図る。</p>	A A A		
		<p>福工サクセスプランに基づき生徒の進学意識を高め、志望校決定や目標設定ができるよう支援する。また、進学補習を充実させて学力養成を図り、国立大学、高専編入をはじめ合格者の増加を目指す。</p>	A A		
		<p>進路情報を広報に生かす。</p>	A		
<p>就職係では、求人票が2,000件、企業の学校訪問が約700社になった。生徒・保護者に確実な情報提供するとともに、生徒の能力・適性、希望に応じた進路決定に繋げる。</p> <p>(1)多様な進路希望に応えられるよう進路ガイダンスの充実を図る。</p> <p>(2)学務、教育情報と連携を図りながら、新しい要録・調査書に対応できるキャリアパスポートを考慮する。</p> <p>(3)2年生学年末における進路意識を高める方策を充実させる。</p> <p>(4)公務員の指導体制の見直しを行う。</p> <p>進学指導係としては、福工サクセスプランに基づいた計画的なガイダンスや説明会の実施、進学補習体制と内容の充実、担任と生徒を支援する教職員との連携を常に図りながら生徒の進路指導を行ってきた。3年生については生徒のたゆまぬ努力の成果として国公立大学および国立高専とも合格者が倍増した。以下が次年度の課題である。</p> <p>(1)大学入試制度や推薦入試の変更（選考方法等）への対応を行う。</p> <p>(2)進学後に対応できる学力の定着のため進学補習の更なる充実と継続を行う。</p> <p>(3)1・2学年対象対象進路ガイダンスの更なる充実を図る。</p>					

特別活動・部活動	学校行事を活性化させ、生徒が積極的に参加し成功・感動体験を共有し、所属感や愛校心を持たせる。	生徒会長、生徒会執行部、応援リーダー、獅子の会を中心に学校行事を生徒中心で運営する。	B	B	B	挨拶日本一を掲げている学校であるが、現在質の高い挨拶を行うことができていない。生徒会長や生徒会執行部、応援リーダーだけでなく、部活動などの協力を得ながらさらに活気のある学校づくりを推進する。また、文化祭や体育祭などの大きな行事だけでなくクラスマッチなどの月一度の行事においても、さらに活発に実施していく。そのため、新年度からリーダーを中心に学校を活気づかせることでできるように計画的にリーダー育成を行う。
		委員会活動を計画的に支援し、活発で自主的な活動を促す。	B			
		リーダーを計画的に育成し、活躍の場を増やす。	A			
		質の高い挨拶を推奨し、活気のある学校生活と、高いコミュニケーション能力の獲得を目指す。	B			
健康・安全指導	健康安全教育的の充実に向け、校内環境の整備と望ましい生活環境の啓蒙を図る。	新たな人間関係を形成し、多くを学び合える場として、部活動・同好会への参加を増やし、活動の活性化を図る。	A	A	A	学校医、ソーシャルワーカー等、生徒の健康診断、メンタルヘルケア事業を確実に行うことができ、生徒の健康管理を徹底することができた。保健委員会活動では、1年生は月一回の保健便りの発行、2年生はボランティア清掃、3年生は毎日の可燃物処理と清掃点検等充実した活動を行うことができた。生徒の保健委員としての自覚を持たせることができた。次年度はこれらの活動をさらに充実させる。
		健康への意識を向上させるため健康診断等の結果を随時知らせ、個別の生徒への保健指導を充実させる。	A			
		危機管理マニュアルを周知し、緊急対応、生徒の安全確保に努める。	A			
		保健室利用状況を常時確認できるようにデータ入力を行い生徒の指導へ活用できる環境を整える。	A			
家庭と地域との連携・広報活動	地域や保護者との連携を密にし、開かれた学校づくりのため、一層効果的な広報活動を企画し、展開する。	校内外の清掃を徹底し、日本一美しい学校を目指し、また、地域に愛される学校を目指す。	B	A	A	学校HPは、リニューアルできず、次年度の課題としたい。PTA活動は、PTA新聞のページ数増、文化祭ではバザーでの積極的参加などで学校との連携が深まった。
		委員会活動の活性化を図り、生徒の自己肯定感の向上を目指す指導を行う。	A			
		学校ホームページの内容及びデザインを見直し、本校の魅力を積極的に発信する。	B			
		学校案内パンフレットの内容を電子ブック化し、本校の教育活動をよりわかりやすく紹介する。	A			
研究・研修	「わかりやすく、興味が持てる授業」のために、アクティブ・ラーニングやICT機器の活用に関する研修を積極的に行う。授業アンケートを活用し、生徒のニーズを理解・反映して授業の改善を促し、社会や地域のニーズに応えられる教育の在り方を追求する。	PTA活動を通じて保護者と学校との連携をを深め、より効果的な教育活動を行えるようにする	A	A	A	授業アンケートの内容や調査方法をさらに工夫・改善する。授業公開週間の在り方を考察し、「わかりやすく・興味が持てる授業」から「理解が深まり、学力向上を可能に出来る授業」へと進化するために、職員の意欲の高揚と意識の向上を図るための提案を行う。
		授業の工夫・改善を図るため、研究授業や公開授業の質を向上させる。	A			
		基本研修や校外研修の内容が全職員で共有できる研修を計画する。	B			
		研修の内容を整理し、研修の効率化・スリム化を推し進め、研修の認知度を上げる。	A			
教育情報	先生方の教育活動がより充実できるよう、教育の情報化を推進する。また、ICT機器の利用を促進させる。	学務部と連携を図り、「わかりやすく、興味が持てる授業」に関わる研修の運営を行う。	A	A	A	定期的な情報セキュリティの重要性や必要性などについて告知し、セキュリティ管理を徹底する。また、ICT機器の利用促進のためのハードウェア機器の追加導入を図り、利便性を向上し、更なる利用促進を図っていく。
		校務用パソコン、学事システム、校内ホームページ、校外ホームページの利用促進を図り、積極的に情報発信するとともに、業務の効率化を図る。	A			
		重要情報等のセキュリティ管理を徹底する。	B			
		ICT機器を先生方が利用しやすいよう工夫し、促進を図る。	B			
学校図書館	図書館整備の推進と広報活動の充実により、図書館利用の増進とマナーの向上を図る。図書委員会の活性化をさせ、生徒主体の読書の習慣化を推進する。視聴覚機器の円滑な運用と整理整頓を進める。	図書ホームページの内容を電子ブック化し、本校の教育活動をよりわかりやすく紹介する。	A	B	B	本年度は書架の設営、図書、及び専門書の拡充を図るが、目標の20パーセントほど進んだ。次年度はさらにそれらの拡充を図り、100パーセントに近づける。
		図書、朝読書本の集団貸出や図書館ビデオ作成等を通じ、図書委員会活動の活性化を図る。	B			
		図書館の書架、蔵書及び視聴覚室機器の整備整頓、拡充を進め、有効利用と利用時のマナーの推進を図る。	A			
		図書館報「書窓」や「BookNavi」「新刊案内」等の発行を通して図書館の広報活動に努める。	B			
人権・同和教育	本年度の人権教育全体計画、年間計画に基づき、全ての教科・領域において生徒一人ひとりの人権尊重に関する知識理解と人権感覚の育成をめざし、学力と進路の保障を全職員で推進する。	図書、朝読書本の集団貸出や図書館ビデオ作成等を通じ、図書委員会活動の活性化を図る。	B	A	B	本校の教育活動について振り返り、学校における人権学習の課題を職員の共通理解を図りながら研修を行った。意見交流で多くの意見が出され、落書きやいじめなどの事象に対して教職員がどう対応するかが重要であることが理解できた。今後、生徒の人権尊重の態度や行動を育成するために、教職員の人権感覚をより一層、磨く必要があるため職員研修の充実を図っていく。
		人権・同和教育推進委員会を定期的に開催し、各学年、各分掌からの情報を共有し、生徒の状況に応じて関係分掌や機関との連携をとりながら、生徒指導に活かす。	A			
		特設授業については、人権・同和教育推進委員会において事前に指導内容を検討して、学年でも事前学習を行い授業に臨む。その後、評価や反省点を委員会で総括する。	A			
		教職員が、全ての教育活動において生徒一人ひとりを大切にす環境づくりに配慮する。	B			
1 学年	すべての生徒が元気で明るく挨拶を行い、心と体を積極的に鍛えることができ、有意義で楽しい学校生活が送れるよう指導、支援に努める。	職員研修を通して、教職員の人権・同和教育に関する知識や実践的指導力の向上を目指す。	B	B	B	学習意欲や態度はクラスによってばらつきがあるものの、落ち着いて学習できている。宿題やレポート等の提出が遅れがちなのが全体的に多いのが気になることである。普通教科の先生方と会議等を通して連携を図り、生徒たちの動向を見守っていききたい。必要に応じて学年集会を活用し学年の指導を統一する。
		生徒の学習意欲を積極的に評価し、授業や自宅学習に主体的に取り組む態度を喚起し継続させる。	B			
		学校行事や挨拶、掃除などに積極的に取り組ませ、質実剛健の伝統を継承し、福工生としての自覚と誇りを育む。	B			
		一人ひとりの生徒が楽しく充実した学校生活が送れるよう、職員間の連携を密にして生徒を掌握し、積極的な生徒指導と支援に努める。	A			
2 学年	2年後の自己実現に備え、福工生としての自覚と誇りを涵養し、自ら頭と体と心を鍛えようとする主体的な態度を育む。	6時間の授業を高校生活の中心に据え、自ら目標を立て、反省と感謝の念を忘れずに謙虚に努力をさせる。	B	B	B	学年集会等の機会に、修学旅行に向けてどんな集団に成長して欲しいのか、何が出来ていて何が出来ていないのかを具体的に伝えることで、目標をもって真摯に取り組む姿勢がみられるようになってきた。今後は進路意識を向上させ、落ち着いて行動できるように指導していく。
		学校行事に主体的に取り組ませ、中堅学年として学校全体の活性化に貢献させると共に、福工生としての誇りを高めさせる。	A			
		常に進路実現に関連付けた行動を心掛けさせることで、進路に関する関心を高め知識を蓄えさせる。	B			
		生涯学習力が必要であることを意識させ、学習意欲を内発的に喚起し、自ら学ぶ態度を身に付けさせる。	B			
3 学年	生徒の自発的・主体的活動を積極的に支援し、互いに切磋琢磨しあい、個々の存在価値を高め合う集団の形成を目指す。また、目標達成に向けて前進し続ける気概を持ち、具体的な行動を起こすことができる生徒の育成を目指す。	努力が結実する経験や他者との関わりを通して自尊心を持たせ、向上力のある人材となる基盤を築く。	A	A	A	学年集会や学校行事の機会に最上級生としてあるべき姿を意識させたことが功を奏し、進路決定後も学校生活が大きく崩れなかった。生徒が福工生としての自尊心を持つことができた結果であると考えられる。また、進路指導部や各学科との連携により、順調に進路を決定することができた。しかし、受け身な学習態度であることに変わりない、自発的に学ぶ態度の育成は各教科担当との協調が必要である。
		最上学年としての主体的活動をサポートし、社会でもリーダーとして活躍できる人材を育成する。	A			
		保護者や各分掌との連絡を密にし、職員間での情報を共有して生徒の有機的な指導に生かす。	A			

染織デザイン科	社会人として通用する基本的な生活習慣の確立、基礎的な学力の向上及びキャリア教育の推進を図ると共に授業や資格取得を通して学習方法を取得させ学校生活を充実させ笑顔で過ごさせる。	ルールやマナーの大切さを理解させ、機敏に行動できるよう指導し、徹底させる。	A	B	B	科全体で情報の把握・共有を徹底しており対応や指導も生徒の成長を確認しながら徹底できている。個々に応じた取組も共通理解のもとに進行している。デザインの応募や資格取得もワンランクアップできているので継続していく。コミュニケーション能力の更なる成長を促す。
		個別指導を中心に、進路意識の高潮を図り、早期に進路内定率100%の実現を目指す。	B			
		授業を工夫し、興味関心を持たせ、2・3年生は、デザイン公募へ応募させ、入選者を増やす。	A			
		資格試験合格率前年度比5%増、2年連続色彩検定2・3級全員合格と文科大臣賞受賞を目指す。	B			
建築科	建築に関する興味・関心を喚起し、本学科生徒としての自覚と誇りを持って、何事にも積極的に挑戦する人材を育成するとともに、社会人として必要な基礎学力や基本的な生活習慣を身に付けさせる。	時間や提出物の期限の厳守、服装、言葉遣い、態度等の基礎基本を徹底指導し身に付けさせる。	B	A	A	ものづくり九州大会出場や事務所協会主催の建築設計競技で10年連続知事賞受賞等成果を上げている。進学では国立大合格者も多かった。就職の合格率も高く、ほぼ建築関係に進んだ。本年度の目標は概々達成したといえる。このような成果を継続させるための教員の体制づくりや、施設設備の更新等や興味・関心のある生徒の確保が課題である。
		基礎学力を充実させて、建築への興味関心を高め、希望進路実現を図る。	A			
		実習室の環境や各種工作機械を整備し、授業を充実させ、環境整備と安全管理の意識を高める。	A			
		ものづくりコンテスト及び建築設計競技において、最優秀賞の獲得を目指し計画的に取り組む。	A			
機械工学科	工業技術やものづくりに興味・関心を持たせ、進路に対する意識向上を図るとともに、コミュニケーション能力や社会性を磨き社会人として自立した有為な人材となる生徒を育成する。	生徒自らが進路を決定していく態度を育成し進路に対する意識向上を図り、就職内定率100%を早期に達成する。	A	B	B	継続した学習指導、環境整備を行い進路目標の達成に向けて生徒の自覚と自主性を促し、指導体制を整えていく。技能大会では良い成績を取めたが、ものづくりに関しては産学官連携産業人材育成事業や研修等を通して教員の實力も向上させる。資格試験への取り組みでは共通理解を図り補習内容の充実および合格率の向上を目指す。
		社会人として必要な基礎・基本の指導にともない時間厳守、言葉づかい、挨拶、整理整頓等を徹底する。	B			
		資格の精選を行いながら取得の目的を明確にし、自己のスキルアップのために積極的に取り組ませる。	A			
		教員の専門性を高めるとともに、授業担当者間で十分な連携を図り、学力を向上させる。	B			
工業進学コース	理工系大学に進学する上で必要な基礎学力の習得と学習習慣の定着を図る。また、ものづくりに必要な技術技能を習得させる。将来の工業人のリーダーとしての志を育成する。	定期的に進路を考えさせる機会を設け、学習意欲の向上と明確な進路目標の決定に努める。	A	A	A	面談やホームルーム等の時間を用いて定期的に進路を考えさせる機会を設定し、各人の進路実現に向けたきめ細かい指導を行うことができた。本年度より入試選抜方法を変更した大学が多数あり、次年度以降も生徒の学力向上を目指すとともに入試情報も注視する必要がある。また、ものづくりに関する技術や知識の必要性を今以上に認識させ工業人のリーダーとなる人材育成を目指す。
		特徴である少人数制の授業を生かし、きめ細かな指導を行い希望進路の実現を図る。	A			
		ものづくりに関する技術や資格の重要性を認識させ、工業人のリーダーとしての志を育成する。	B			
		生徒の進路意識を高め国公立大学・高専への進学率が前年度比2倍以上となることを目指す。	A			
情報工学科	基本的な生活習慣を身に付け、資格取得やものづくりに情熱をもって取り組む生徒を育成する。	自ら身だしなみを整え、人の話を素直に聞くことができるようきめ細かな指導をする。	A	A	A	応用情報技術者試験に1名、基本情報技術者試験に2名、ITパスポート試験に10名が合格したが全体的にチャレンジする生徒が少なかった。自信をもたせるために出題傾向の分析ときめ細かな指導を行う。科目間の知識の繋がりと応用する力を発揮できるように内容及び指導方法を改善する。
		情報技術の進展に対応した実習教材を開発し、ものづくりを通して学習意欲を高める指導をする。	A			
		情報処理技術者試験の指導内容や指導方法を確立し、年間合格者20名以上を目指す。	B			
		基礎学力を定着させるために、科目ごとに課題を設定し自学の習慣を身に付けさせる。	B			
環境化学科	化学者に必要な技術とモラルを身につけ、さらに環境保全に対するの関心を持ち、かつ実行する意欲を持つ生徒を育て、それに必要な資格を取るよう指導する。	姿勢を正し、私語をなくさせ、教室を整美して授業に集中するように指導する。	B	B	B	危険物取扱者免許取得の方法を再検討し、指導方法や受験時期を変えて合格率を上げるようにする。また、授業や実習の内容も社会情勢にあわせて変えていくことも考える。就職試験対策も面接指導だけでなく学科試験に対する指導を行う。
		実験中、注意が拡散しないように努めさせ、安全指導を徹底する。	B			
		提出物の期限を必ず守るように指導を徹底する。	A			
		危険物などの資格取得に積極的に取り組むよう意欲を高めさせる指導をする。	B			
電気工学科	生徒が社会で貢献できる電気技術者として自立心と誇り並びに自己の目標を持てるよう日々の教育活動を充実させる。また、何事にも積極的に取り組むことが出来る向上心を持つ生徒を育成する。	電気技術者として必要な基礎学力の定着を図る。	A	A	A	実習室の整理整頓を行い、実習場を整備。安全教育にも力を入れた。ものづくりに関しても積極的に取り組み、文化祭などでは、課題研究で製作した電車に多くの子供たちが乗車し喜んでもらえた上、生徒達もモノづくりの大切さ・楽しさを実感することが出来た。その結果、校内生徒研究発表会では、最優秀賞をいただき県大会へ出場することが出来た。具体的方策を検討し改善を進める。
		生徒の意識を高め、第二種電気工事士の合格率が9割以上となることを目指す。	B			
		ものづくりを通して、調査研究や考えることの重要性に気づかせるとともに、創造力や表現力を身に付けさせる。	A			
		実習室の整理整頓に努め、安全教育を推進する。	A			
都市工学科	基本的な生活習慣を身に付けさせ、社会性やコミュニケーション能力の向上を目指す工業技術教育に取り組み、自信と誇りを持ち何事にも積極的に挑戦する生徒を育成する。	時間を厳守し、身だしなみを整え、学ぶ環境を整備する。	A	B	B	就職は早期に100%となり、実績が上がった。公務員の指導は今後も継続して指導を強化したい。学ぶ環境づくり、家庭学習の習慣、基礎学力の向上は、教員間の連携を密にして取り組んでいきたい。正しい言葉でコミュニケーションの取れる生徒の育成を目指すとともに、高い目標を掲げ、ものづくり、資格取得の成果を上げる。
		聞く力・考える力を育成し、家庭学習の習慣を醸成し、学習意欲と基礎学力の向上を図る。	B			
		生徒の進路意識を高揚させ、進路希望の早期決定と100%内定を目指す。	A			
		ものづくり大会及び資格取得において好成绩を収めることを目指し、指導の徹底を図る。	B			
電子工学科	基本的な生活習慣を身に付けさせ、電子技術者としての意識や知識・技術を高める共に、自立心と思いやりの心を持った生徒を育成する。	創造性を育む財教育を行い、パテントコンテストに1年生80%以上の応募を目指す。	A	A	A	パテントコンテストでは、計画的な指導体制により1学年全員(100%)の応募が実現し2案が優秀賞(特許取得支援対象者)に選出された。工事担任者試験では30名以上が合格点数を上回っている。次年度以降についても、継続した成果を出せるよう職員間の指導技術の伝承により人材育成に努める。
		技術者としてのものづくり技術力向上のため、全員が1つ以上の回路を製作する。	B			
		基礎学力の定着・向上、学ぶ意欲の向上を図り、特殊無線技士の全員合格、工事担任者30名以上の合格を目指す。	A			